埼玉大学紀要　教育学部，69(1)：65－75（2020）

実習指導を行う養護教諭のための「養護実習サポートガイド」の作成と評価

齋　藤　千　景　埼玉大学教育学部学校保健学講座
竹　鼻　ゆかり　東京学芸大学芸術スポーツ科学系
三　森　寧　子　千葉大学教育学部
鎌　塚　優　子　静岡大学教育学部
鹿　野　裕　美　前宮城大学看護学部

キーワード：養護実習　サポートガイド　指導養護教諭

1．緒言

養護実習を学生にとって充実したものとするためには、実習校と養成機関の連携が欠かせない。しかし、実習指導を担当する養護教諭は、創意工夫をして実習指導を行っているものの、指導に対して不安や困難を抱えている。一方、養成機関はマンパワーの不足などから、実習校に対して十分なサポートが出来ているとは言い難い実情がある。さらに養護実習の形態は養成機関によって異なり、実習内容や方法などが統一されていないことから、実習の質の保証も課題となっている。つまり、実習目的・目標、実習内容や優先順位、方法及び評価などを、ある程度標準化して、教育水準を保証することが求められる。そこで、実習の目的・目標、内容、計画例、評価を簡便にわかりやすくまとめ、多忙な指導養護教諭のためのサポートとなることを目的としたサポートガイドを作成した。

養護実習は学生にとって養護教諭の職務の理解を深めるとともに、教員としての価値観、即ち、教育観、養護観、指導観などを構築する機会である。養護実習において主の実習指導者は、現職の養護教諭である。我々が行った調査[1)]では、指導者と学生の良好な関係が、養護教諭の職務理解及び、実習の満足度を高めることが明らかとなった。つまり養護実習において、学生が目標を達成し、満足感を得るためには学生と指導養護教諭が良好な関係を築くとともに、指導養護教諭が職務内容をどのようにとらえているか、どのような価値観をもって学生を指導するかが鍵となる。

指導養護教諭は創意工夫をしながら、実習指導を行っている。しかし、実習指導者となるための条件や規程は定められておらず、現場での経験が浅い養護教諭であっても、実習指導を担当しなければならないこともある。また、養護教諭は１人職であることが多く、指導に関して相談できる人がいないことから、指導に不安や困難を感じていることが報告されている[2-4)]。さらに、養護実習に関する書籍は少なく、いずれも相当な分量であるため、要点がわかりにくく、指導養護教諭にとっては活用しにくい面がある。そのため、多忙な職務に加えて実習指導を行う養護教諭にとっては、実習の目的･目標、内容、計画例、評価等が簡便にわかりやすく示されているパンフレット形式のガイドなどが役立つはずである。

一方、養成機関は指導養護教諭と密に連携をとり、学生の学びをサポートする立場にある。しかし、実習校が遠方であること、養成機関のマンパワーの不足から、実習中の巡回訪問は１回の養成機関が多い[1)]。また、実習先の学校現場も忙しいために、巡回訪問時にも情報を共有する時

間が確保できない状況もある[3)]。つまり対面での情報共有には限界があり、連携の方策の検討が求められる。さらに、養護実習の形態は養成機関によって様々であり、実習内容や方法などに相違があることが示されている[3.4)]。さらに、養成機関と指導養護教諭が重要視する項目や度合には違いがあるとの報告もあり、実習校と養成大学が、実習の目的・目標、内容、評価を共通認識できる指導の工夫が求められている[5)]。

このことから、養護実習の質を担保し、学生にとって養護実習を充実したものとするために、実習指導者である養護教諭が活用することができる「養護実習サポートガイド」を作成した。

本研究の目的は、養護実習を行う養護教諭のためにサポートガイドを作成し、評価することである。

2．サポートガイドの作成

2-1　作成の手順

作成は以下の手順で行った。①実習の指導経験がある養護教諭を対象に、指導をするにあたり知りたかった情報及び不安であった内容についてのインタビュー調査を実施する。②①の結果と文献[6-8)]を参考にして試案を作成する。③試案を元に共同作成者で検討と修正を重ねてサポートガイドを作成する。④依頼した学生と試案を元にデザインを決める。⑤現役養護教諭８名にサポートガイドに対する意見をもらい修正を重ねる。

2-2　構成と内容

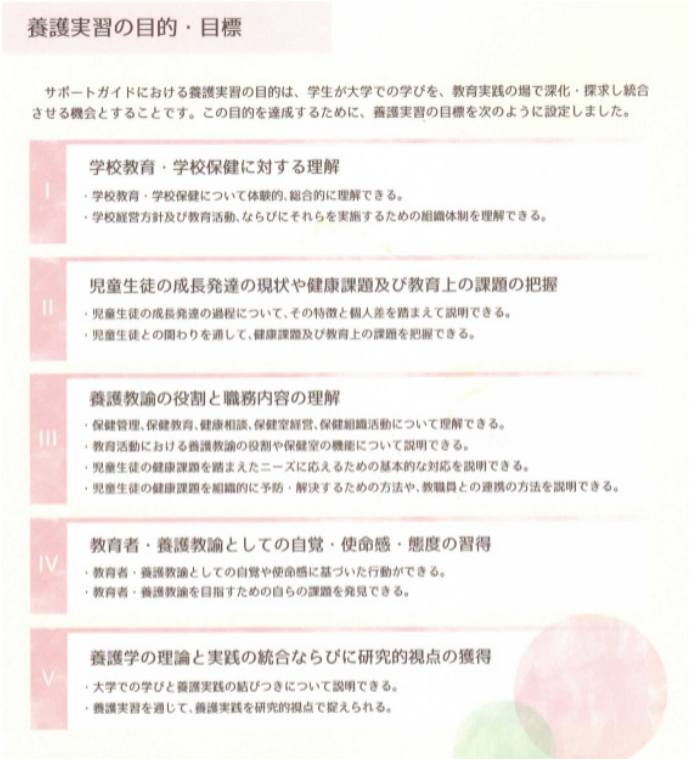
サポートガイド作成のコンセプトは実習を通して活用できるもの、さらに指導養護教諭のみならず、教職員が養護実習の概要を理解できるものとした。構成は実習の目的・目標、内容、計画例、評価とした。

指導養護教諭へのインタビュー調査では、「どのように実習をすすめたらよいかわからない」、「実習中に学生にどのような経験をさせるか悩む」、「評価に関することがわからない」などの困難点があげられた。さらに、「実習中に活用できる資料が少ないこと」や「学校組織全体の共通理解のもとで計画を立てて進めることが難しい」との不安もあげられた。そこで、実習の目的･目標を示し、それに対応する実習内容と方法を系統的、かつ簡潔にまとめた。さらに、指導養護教諭が実習中に活用しやすいように工夫をした。

実習の目的・目標は、先行研究[5)]を参考に①学校教育・学校保健に対する理解、②児童生徒の成長発達の現状や健康課題及び教育上の課題の把握、③養護教諭の役割と職務内容の理解、④教育者・養護教諭としての自覚・使命感・態度の習得、⑤養護学の理論と実践の統合ならびに研究的視点の獲得で構成した。さらにそれぞれの目標ごとに小項目として学生の行動目標を示した。(図１、２)

計画例は４週間をモデルとした。形式は時間割と同様の形式とし、各時間に実施する内容を記入した。そして、１週目は「講話と見学を中心」、２週目は「見学から実施」、３週目は「実施中心」、４週目は「総合的な活動」と実習方法に関しての見出しを付けた。さらに、時間割の各コマは講話を青、見学を黄、実施を赤とし、実施方法によって色分けをした。そのことで、一週目は青や黄が多く、４週目はほとんどが赤となり、視覚的にも実習が講話や見学から実施へと深まることが分かるように工夫した。(図３)

図１　表紙



養護実習の目的・目標

サポートガイドにおける養護実習の目的は、学生が大学での学びを、教育実践の場で深化・探求し統合させる機会とすることです。この目的を達成するために、養護実習の目標を次のように設定しました。

I　学校教育・学校保健に対する理解

- 学校教育・学校保健について体験的、総合的に理解できる。
- 学校経営方針及び教育活動、ならびにそれらを実施するための組織体制を理解できる。

II　児童生徒の成長発達の現状や健康課題及び教育上の課題の把握

- 児童生徒の成長発達の過程について、その特徴と個人差を踏まえて説明できる。
- 児童生徒との関わりを通して、健康課題及び教育上の課題を把握できる。

III　養護教諭の役割と職務内容の理解

- 保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動について理解できる。
- 教育活動における養護教諭の役割や保健室の機能について説明できる。
- 児童生徒の健康課題を踏まえたニーズに応えるための基本的な対応を説明できる。
- 児童生徒の健康課題を組織的に予防・解決するための方法や、教職員との連携の方法を説明できる。

IV　教育者・養護教諭としての自覚・使命感・態度の習得

- 教育者・養護教諭としての自覚や使命感に基づいた行動ができる。
- 教育者・養護教諭を目指すための自らの課題を発見できる。

V　養護学の理論と実践の統合ならびに研究的視点の獲得

- 大学での学びと養護実践の結びつきについて説明できる。
- 養護実習を通じて、養護実践を研究的視点で捉えられる。

図２　養護実習の目的・目標

実習計画例

４週間で行う実習計画の一例です。実習校の状況にあわせて立案してください。

色分けによる学生の活動例

講話　指導者からテーマに沿って話を聞く。
見学　目的意識を持って、児童生徒や教職員の活動を見学したり、参加したりする。
実施　教職員の指導を踏まえながら、学生自身が主体的に計画を立てて実施する。

＊空欄は保健室にて、救急処置、健康相談、保健指導等について指導を受けながら、養護実践を体験する。

1 week　講話と見学

時間	月	火	水	木	金
行事予定		歯科検診	職員会議		
朝	実習オリエンテーション	環境衛生（水質検査等）・校内巡視・健康観察			
1	実習オリエンテーション		保健組織活動		
2	学校経営	教育課程		生活指導	保健情報の管理
3	保健室ガイダンス	健康診断（歯科）	児童生徒理解	健康診断の事後措置	特別支援学級
4	保健室経営	健康診断（歯科）			学校環境衛生活動
昼	学級（給食・清掃指導等）・保健室				
5		健康診断片づけ	授業	授業	
6	健康診断	健康診断準備	健康診断の事後措置		学校安全
授業後	健康診断準備	児童生徒保健委員会	職員会議	健康診断欠席者の計測	
	振り返り・実習日誌等のまとめ				

2 week　見学から実施

時間	月	火	水	木	金
行事予定	耳鼻科検診	尿検査	尿検査		遠足
朝	環境衛生（水質検査等）・校内巡視・健康観察				
1	授業	尿検査回収	尿検査回収	授業	遠足参加
2	健康診断準備			保健便り作成	
3	健康診断（耳鼻科）	環境衛生検査	授業	保健便り作成	
4	健康診断（耳鼻科）				
昼	学級（給食・清掃指導等）・保健室				
5	健康診断片づけ	授業	遠足前保健関係の準備	遠足前の保健教育	
6	健康診断の事後措置		健康診断の事後措置		
授業後		健康相談	スポーツ振興センター	事例検討会	
	振り返り・実習日誌等のまとめ				

3 week　実施中心

時間	月	火	水	木	金
行事予定	特別支援校内委員会				職員研修
朝	環境衛生（水質検査等）・校内巡視・健康観察				
1				スクールカウンセラーとの連携	
2	授業	授業		保健教育準備	
3			保健教育準備	保健教育（学級）	健康診断準備
4		授業	保健教育準備		
昼	学級（給食・清掃指導等）・保健室				
5	特別支援教育	関係機関との連携	保健教育（学級）		授業
6	特別支援校内委員会	健康診断後の保健指導			
授業後	健康診断後の保健指導	健康診断後の保健指導	保健教育の評価・修正	保健教育の評価・修正	職員救急法講習
	振り返り・実習日誌等のまとめ				

4 week　総合的な活動

時間	月	火	水	木	金
行事予定	内科検診	内科検診			
朝	環境衛生（水質検査等）・校内巡視・健康観察			1日保健室経営	1日保健室経営
1					
2	健康診断（内科）	健康診断（内科）	保健教育（学級）研究授業		
3	健康診断（内科）	健康診断（内科）	他の実習生研究授業		
4	健康診断片づけ	健康診断片づけ			
昼	保健室	保健室	保健室		
5		健康診断の事後措置			
6					
授業後	保健教育準備	児童生徒保健委員会	研究授業協議会		実習のまとめ
	振り返り・実習日誌等のまとめ				

養護実習の法的位置づけ

養護実習は、養護教諭免許を取得するために必要な科目です。教育職員免許法（第５条別表２）、教育職員免許法施行規則（第9.10条）により５単位（事前事後指導１単位を含む）が定められています。1単位の実習時間数は、大学設置基準（21条２項）により、30時間から45時間とされています。養護実習の期間は、大学が設定している１単位あたりの実習時間数によって、週数が決まります。なお、平成31年４月の教育職員免許法施行規則の改正により「学校体験活動（学校インターンシップ）」を養護実習の単位の一部（２単位まで）として充てることができるようになりました。

図３　実習計画例

目標	大項目	小項目	具体的な内容	チェック欄
I	学校経営 安全・危機管理	学校経営	●学校経営方針・教育目標・学校運営・学校組織・教育課程についての理解	
		安全・危機管理	●学校安全及び危機管理（学校安全計画・危機管理マニュアル等）の理解	
			●学校の施設設備等の安全管理	
II	児童生徒の理解	児童生徒の理解	●児童生徒の成長発達の理解	
			●児童生徒の健康課題及び教育上の課題の把握	
			●特別な支援を要する児童生徒の理解（個別の教育支援計画・個別の指導計画等）	
III	保健管理	健康観察	●健康観察の計画と実施（朝の健康観察結果の分析と対応）	
			●健康観察の評価と活用	
		救急処置	●日常の救急処置における養護活動（アセスメント、対応、保健指導等）	
			●救急体制の整備及び救急処置に必要な設備や物品の整備点検	
			○学校行事における救急処置	
			●校医や担任、保護者、病院等への連絡	
			●救急処置に関する事後処理（書類作成、日本スポーツ振興センター手続き等）	
		健康診断	●定期・臨時の健康診断の計画・立案・準備（物品の準備、健康課題の把握等）	
			●定期・臨時の健康診断の事前連絡・保健指導（児童生徒・教職員・保護者）	
			○当日の運営	
			○事後処理（治療勧告・学校保健統計の作成等）及び健康診断結果を活用した事後の保健指導	
			○学校医・学校歯科医・学校薬剤師・協力機関との連携	
		疾病の管理と予防	●感染症の疑いのある児童生徒、職員への対応（出席停止・臨時休業を含む）	
			●疾病のある児童生徒への対応（学校生活管理指導表の活用）	
			●アレルギー疾患のある児童生徒の危機対応（緊急体制、研修を含む）	
			●感染症・熱中症等の予防対策	
		学校環境衛生活動	●日常、臨時、定期の環境衛生の計画と実施	
			●環境衛生検査の実施、環境にかかわる問題発見と対応	
			○学校薬剤師等が行う検査の準備、実施、事後措置の連携・協力	
	保健教育	教科（体育・保健等）	●授業の年間計画	
			○授業の実施（テーマ設定、教材研究、指導案の作成）、評価（ティーム・ティーチングでの実施も含む）	
			○授業作りのための保健情報や資料の収集及び担任等への情報提供	
		特別活動等	●年間計画（主題・時期・実施者・方法）	
			●学級活動やホームルーム活動での保健教育	
			○学校行事に伴う保健教育	
			○保健だよりの作成及び掲示物の作成	
	健康相談	健康相談	●健康相談の必要ある児童生徒の把握	
			○養護教諭の職務の特質・保健室の機能を生かした健康相談の実施	
			○健康上の課題のある児童生徒への指導及び保護者への助言	
			○教職員及び校内組織との連携及び医療機関や専門家等関係者との連携	
		保健指導	●心身の健康に課題のある児童生徒への指導	
			○生活習慣に課題のある児童生徒への指導	
			○いじめ、性の逸脱行動、薬物乱用等、現代的健康課題のある児童生徒への指導	
	保健室経営	保健室経営	●保健室の教育的機能及び保健室の意義	
			●学校教育目標、学校保健目標、学校保健計画と保健室経営計画との関連	
			●保健室経営計画の立案・実施・評価	
			●保健日誌の作成	
			●保健室の施設設備・備品等の配置・レイアウト及び備品・衛生材料・薬品等の保管と点検	
		保健情報管理	●学校保健事務（保健室における諸表簿、文書、資料の種類）と保健関係の諸帳簿の取り扱い	
			●学校保健における情報の把握・管理（個人情報の扱いを含む）・活用（保健統計）	
	保健組織活動	組織活動	●学校の校務分掌、各種委員会、学校保健委員会についての理解	
			○児童生徒保健委員会の活動への参画	
			○PTA 等地域における健康づくり活動への参加・指導助言	
			○学校医・学校歯科医・学校薬剤師ならびに関係機関と養護教諭との連携	

＊職務の内容は平成 20 年の「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体として取り組めるための方策について」（答申）及び平成 28 年の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）で述べられている内容を参考にしています。

図４　実習内容

実習の評価

評価は学習の到達度を判定するために必要です。また評価は、学生の学習意欲の向上や成長につなげることができます。よって指導者は、人を育てる自覚を持って評価にあたる必要があります。指導者がより良い評価を行うために、次の点を参考にしてください。

■養成機関が提示している実習目標に従い、学生が学ぶべき知識と技術を明確にしておく。
■自分の価値観や判断だけでなく、明確な根拠に基づいた評価をする。
■管理職、教職員、児童生徒などから得る多様な情報を統合して評価する。
■日々の学生との関わりや実習日誌を通じて、学生自身が自己評価できるような働きかけをする。

実習指導を養護教諭としての自らの学びと成長の機会に！

・実習指導を経験することで、自らの実践を客観的に振り返り、改善できる。
・実習指導の経験が、自己の教育観、養護観、子ども観を確認する機会となる。
・実習指導の経験が、新たな学びへの意欲につながる。

学校現場で蓄積された
知見や先生方の実践を
学生へお伝えください。

ご不明な点は、遠慮なく大学の
担当教員にお問い合わせください。

図５　実習の評価

実習内容は平成20年の「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（答申）」[9]及び平成28年の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」[10]を参考に50項目に整理をした。さらに内容の50項目は目標に対応させる形式で一覧表にした。また、実習時期によって、実施できる内容に制限があることを考慮しつつ、必ず実施する内容は●で、実施することが望ましい内容は○で示した。さらに、実施した内容を確認することができるようにチェック欄を設けた。（図４）

評価は大学により評価項目が異なるため、評価の観点ではなく、評価時の留意点を掲載した。

最後に、実習指導者としての不安や負担があるとのインタビュー結果を受けて、実習指導の経験が指導養護教諭の学びにもつながるというポジティブなメッセージを記した。具体的には筆者らの調査[11]で指導者自らの学びの要素として明らかとなった「自らの実践を客観的に振り返る機会となること」、「自己の教育観・養護観・子ども観を確認する機会となること」、「実習指導の経験が新たな学びの意欲となること」を記した。（図５）

形態は手に取りやすいように仕上がりＡ４サイズの巻き三つ折りとし、色彩はやわらかな印象となるような暖色系の色を用いた。また､子供や実習生や養護教諭をイメージしたイラストを加えた。さらに、文字だけではなく、表を多用して見やすさを工夫をした。デザインはデザイン専攻の学生に協力してもらった。作成者は学生とデザインや構成について、何度も相談を重ねて修正を繰り返した。

３．サポートガイドの評価

3-1　方法

2019年４月20日～８月６日に養護実習指導を担当した養護教諭28名と、研修会等に参加した養護教諭74名の合計102名を対象に、自記式質問紙調査を実施した（回収率56.9%、有効回答率100%）。質問内容は、学校種、実習受け入れ回数とサポートガイドの内容の評価であった。内容の評価は①実習目的・目標、②実習内容、③実習計画例、④実習の評価、⑤サポートガイドの総合的な評価の５項目であった。回答は①～④については「わかった」、「まあまあわかった」、「あまりわからない」、「わからない」、⑤は「よい」、「まあまあよい」、「あまりよくない」、「よくない」の選択式とした。さらに意見や要望を自由記述で求めた。養護実習指導を担当した養護教諭には、上記の質問に加えて、サポートガイドが実習指導に役立ったかの項目を加え、「役立った」「まあまあ役立った」、「あまり役立たなかった」、「役立たなかった」の選択式で回答を求めた。

調査に際しては、研究代表者の元所属先の研究倫理審査委員会の承認【十文字学園女子大学承認番号2014-01】を得た。調査依頼文に、得られたデータは研究目的のみに使用すること、個人が特定されないよう配慮すること、研究の参加は任意であることを明記し、質問紙の提出をもって承諾を得たと判断した。

3-2　結果

回答者の所属学校種は幼稚園が1.7%、小学校が31.0%、中学校が12.2%、高等学校51.7%、特別支援学校3.4%であった。実習受け入れ回数は、０回が24.1%、１回～２回が50.0%、３回以上が25.9%であった。受け入れ回数が、一番多い人は８回であった。実習の目的・目標、内容及び

計画例は「わかった」、「まあまあわかった」を合わせるとほぼ100%であったが、評価については「あまりわからない」が10%と課題が残った。総合評価は「よい」、「まあまあよい」を合わせ100%と良好であった。さらに、実習におけるサポートガイドの活用については、「役だった」、「まあまあ役立った」を合わせ100%と良好であった。(表１)

表１　養護教諭によるサポートガイドの評価　　n=58(%)

項目	わかった	まあまあわかった	あまりわからない	わからない
目的・目標について	78.6	24.1	0.0	0.0
実習内容について	75.0	27.6	0.0	0.0
計画例について	64.3	36.2	1.7	0.0
評価について	46.4	46.6	8.6	0.0
総合的な評価	よい	まあまあよい	あまりよくない	よくない
	73.2	29.8	0.0	0.0
				n=18　(%)
活用について	役立った	まあまあ役立った	あまり役立たない	役立たない
	66.7	33.4	0.0	0.0

3-3　意見及び要望

意見及び要望に関する自由記述は34名（57%）から寄せられた。自由記述の分析にあたっては、記述内容を肯定的な評価と要望に分けて整理をした。記述内容をなるべく活かす形でコード化し、同様の文脈ごとにサブカテゴリー、カテゴリーとして分類した。文中ではカテゴリーを【 】、サブカテゴリーを〈 〉、代表的なコードを「 」で示した。

(1) サポートガイドの肯定的な評価

サポートガイドの肯定的な評価として【適度な分量による読みやすさ】、【実習目標に関連した具体的な実習内容】、【視覚的な効果が高いデザインによる活用のしやすさ】、【養護教諭以外の教員への実習の理解促進】、【養護教諭自身の学びの実感】の５つのカテゴリーが得られた(表２)。【実習目標に関連した具体的な実習内容】は「実習が３週間で、学ぶべき具体内容を意識して計画をたてると、かなり余裕のない状況だった。サポートガイドで意識しなければ指導もれが多くなっていた」、「養護実習の目的・目標が大きく５つ示され、それぞれに対応した具体的な内容がチェックできるようになっていたので、実習期間中に何度か読み返して活用した」と具体的に実習内容を示している点や、目標と内容の関連が示されていることが評価された。また、「内容についての優先が●と○で示してあるので、計画作成の際に●だけはしっかり取り入れられるようにすることができた」と優先順位を示したことも、評価された。【視覚的な効果が高いデザインによる活用のしやすさ】は「チェック欄を活用することで自分自身が指導計画を立てやすかった」と実施したことを確認出来る工夫や、「計画例についても具体的に時間割単位で組み込んであったので、本校における計画作成に応用することができた」と視覚的な見やすさが評価された。【養護教諭以外の教員への実習の理解促進】は「養護実習の受け入れにあたり、全体像の確認、他の部署への実習内

容や意義の共有などにはとても重宝した」と教務担当者や体育科教員などの他の教職員が養護実習の概要や内容を理解するために活用されていた。【養護教諭自身の学びの実感】は「自分なりに整理・準備して臨み、概ねサポートガイドに添った内容が実施できていたことを確認でき安心した」とあり、サポートガイドが実習指導を担当する不安を軽減することに役立っていた。さらに「実習指導を養護教諭としての自らの学びと成長の機会に！はまさにその通りだった」とあり、サポート

表２　サポートガイドの肯定的な評価

カテゴリー	代表的なコード
適度な分量による読みやすさ	教育実習マニュアルは読むだけでも大変でいやになってしまうので、コンパクトにまとまっていてとても参考になった。 要点が手短にまとめられていて、大変わかりやすかった。ページ数が多くないことがわかりやすく役だった理由である。 他の書籍も目を通したが情報量だけが多く何をすれば良いのかいまいちわからなかった。サポートガイドはシンプルだけど、要点がまとめられていてわかりやすい。
実習目標に関連した具体的な実習内容	実習で教える内容が整理され具体的に示されているため計画を立てる際に役だった。 あらためて養護実習の目的・目標が明記されていて、念頭において指導に当たることができた。 実習が３週間で、学ぶべき具体内容を意識して計画をたてるとかなり余裕のない状況だった。サポートガイドで意識しなければ、指導もれが多くなっていた。 養護実習の目標が大きく５つ示され、それぞれに対応した具体的な内容がチェックできるようになっていたので、実習期間中に何度か読み返して活用した。 内容についての優先が●と〇で示してあるので、計画作成の際に●だけはしっかり取り入れることができた。 昔とカリキュラムも変わっているので、養護実習の質を守るためにも、大学は現場に何を求めておいるのかはっきり分かることは重要だと思う。 多忙な中で受け入れている人がほとんどであるので、サポートガイドがあることで、やりすぎも防げると思う。
視覚的な効果が高いデザインによる活用のしやすさ	実習させるべき具体的内容が明確であったため、チェック欄を活用することで自分自身が指導計画を立てやすかった。 実習計画例で空白の欄は実習生がまとめ時間や救急処置に当てたり自由に使用できて良かった。 計画例についても具体的に時間割単位で組み込んであったので、本校における計画作成に応用することができた。 計画例が色分けされているのが見やすかった。 このガイドは１日の流れがすごく見やすくなって提示されて良かった。 冊子のやわらかな雰囲気も好印象です。フォントも読みやすく落ち着きを感じた。
養護教諭以外の教員への実習理解の促進	養護実習の受け入れにあたり、全体像の確認、他の部署への実習内容や意義の共有などにはとても重宝した。 養護教諭以外の職員にもサポートガイドを提示しどういうことを伝えていけばよいかを理解してもらうことができた。 養護教諭志望の学生の受け入れは少ない。そのため、学校が作成する実習計画がない。サポートガイドを教務と確認しながら作成することができて、役立った。 実習計画例では計画を立てる際に教務主任が参考になった。体育科会議や教務へサポートガイドをコピーして共有した。 一般教科ではない実習であるため、なかなか理解してもらうのが難しいため、サポートガイドは情報量も適切で良かった。
養護教諭自身の学びの実感	「実習指導を養護教諭としての自らの学びと成長の機会に！」はまさにその通りだった。 実習の目標・内容の確認を通して、自分自身の知識の確認ができた。 自分なりに整理・準備して臨み、概ねサポートガイドに添った内容が実施できていたことを確認でき安心した。 今まで最新の養護実習ガイド本がなかったのでとても参考になった。

ガイドに書かれていたメッセージを実感したとの記述も見られた。

(2) サポートガイドへの要望

サポートガイドへの要望として【実習内容】、【実習の評価】、【掲載方法】、【デザイン】の４つのカテゴリーが得られた（表３）。【実習内容】は〈分量〉、〈実習時期・期間〉、〈内容の追加〉のサブカテゴリーで構成された。〈実習時期・期間〉は「時期的に６月という実習から健康診断も終了しており活用しにくい」、「モデルは４週間だが、どこも省けない重要な内容なので、どう３週間バージョンにすれば良いか悩む」と健康診断の実施がない時期や３週間に対応が要望としてあげられた。〈内容の追加〉は「校内職員との人間関係など活動がうまくいくための関係作りなどが入っていると良い」と組織作りの観点の内容があげられた。【実習の評価】は評価の難しさや迷いが書かれるとともに、「具体的な内容が入っているとわかりやすい」、「評価の例があったら嬉しい」との評価例が要望としてあげられた。【掲載方法】は「インターネットでこの計画例がダウンロードできて、各学校用に内容を書き換えることが出来ると、さらに活用がしやすくなる」とサポートガイドをさらに活用しやすくするための提案があげられた。

表３　サポートガイドへの要望

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード
実習内容	分量	細かくまとめられているが、受け入れる側としては細かすぎて、少し圧倒されてしまう気がする。
	実習時期・期間	計画例の様に、様々な行事を実習期間中に設定できればよいのだが、検診や職員AED講習会など実習中には出来ないことの方が多いので、なかなか理想通りにはいかない。 これまで３週間の実習生ばかりだった。モデルは４週間だが、どこも省けない重要な内容なので、どう３週間にすれば良いか悩む。 本校の場合、６月という実習から健康診断も終了しており活用しにくい。 本学の場合健康診断の時期に実習を行っていないため、実習計画例であるような内容はサポートできない。
	内容の追加	校内職員との人間関係など活動がうまくいくための関係作りなどが入っていると良い。 コーディネイト力、ネゴシネイト力アップの実習（校内職員との人間関係の構築・連携を学ぶことなど）がないことが気になった。 不登校、保健室登校への対応を必須としたら良い。
実習の評価		できたら評価を具体的に書いてあると参考になる。 個人的には実習生の評価が実際の評価表をみても、どのような内容を記入すれば良いのか悩んだので、評価の例があったら嬉しい。 実習の評価が難しいと感じることがあるので、もう少し具体的な内容が入っているとわかりやすい。 実習の評価が難しいと感じた。明確な根拠に基づいた評価をするとはどのようなことか。
掲載方法		QRコードなどで計画表や、必要箇所が打ち込めるワード・エクセル文書がガイドからダウンロードできるとありがたい。 インターネットでこの計画例がダウンロードできて各学校用に内容を書き換えることが出来るとさらに活用がしやすくなる。
デザイン		表紙は涙がない方が養護教諭と子どもの柔らかい雰囲気が出て良い。 具体的な内容に関してはイメージがしやすいように、写真やイラストを使い視覚的にしたらどうか。

４．考察

本サポートガイドは、実習の目的・目標、内容、計画例、評価を簡便にわかりやすくまとめ、多

忙な指導養護教諭のためのサポートとなることを目的として作成した。評価からはおおむね良好な結果が得られ、本サポートガイドの有効性が示された。

4-1　養護教諭によるサポートガイドの評価

アンケート調査の結果では、実習の目的・目標、内容は「わかった」、「まあまあわかった」を合わせるとほぼ100%であり、総合評価は「よい」、「まあまあよい」を合わせて100%と良好であった。さらに、実習におけるサポートガイドの活用についても、「役だった」、「まあまあ役立った」を合わせて100%であったことから、サポートガイドの有効性が示された。肯定的な評価項目としては【適度な分量による読みやすさ】、【実習目標に関連した具体的な実習内容】、【視覚的な効果が高いデザインによる活用のしやすさ】があげられた。これらのことから指導養護教諭は実習の受け入れ前に、目標と内容を確認し、計画例を参考に計画を立て、実習中も実施した内容をチェックして、状況に応じて優先順位の高い内容から実施するなど、サポートガイドを手元に置いて活用している様子が窺えた。さらに肯定的な評価項目として【養護教諭以外の教員への実習の理解促進】があげられた。サポートガイドを作成する手順で実施したインタビュー調査において、養護教諭が学校組織全体の共通理解のもとで計画を立てる難しさをあげていた。サポートガイドをコピーして他の教員へ配布したとの自由記述もみられた。このように、本サポートガイドは実習の概要が簡潔にまとめられているため、教員への養護実習の理解を促し、実習の協力を求める手立てになったと考えられる。以上のことから、サポートガイドは養護教諭が安心して実習指導を行う一助になったと言える。

しかしながら、いくつかの課題も残った。計画例については「わかった」のと回答が60%、実習の評価については「わかった」との回答が約50%であり、目的・目標や内容に比べて割合が低かった。さらに、サポートガイドへの要望において〈実習時期・期間〉があげられた。理由として、サポートガイドでは実習計画例を４週間のモデルで作成したが、実際には３週間で受け入れている学校もあること、サポートガイドでは健康診断を計画例に入れたが、健康診断開催時期に実習生を受け入れていない学校があることなど、サポートガイドが実習校の実態に即していなかったことが考えられる。これらが要望の【掲載方法】で実習校に添って計画や内容を書き換えることができるテンプレートを望む声にもつながったと推察される。改善例としては、サポートガイドにQRコードつけて、計画例を数パターン示したり、実習校の状況によって内容を書き換えることができるテンプレートを掲載したりすることが考えられる。

アンケートでは【実習の評価】の要望が一番多く寄せられた。指導養護教諭は実習の評価に関して不安を感じていること[11]が、評価に関するサポートの要望につながったと考えられる。評価は各大学によって項目や基準が違うことから、本サポートガイドでは留意点の記述に留めた。しかし、自治体独自での評価基準を設け、その自治体で教育実習をした学生は大学によらず、その基準で評価を実施する例[8]もある。平成29年に示された教育実習のコアカリキュラム[12]を参考にしながら、養成機関と自治体と実習校が一緒に、評価の基準を検討することも求められる。当面、各養成機関は評価の基準を丁寧に実習校へ説明する必要があるが、本サポートガイドにおいても、目標に呼応した評価の観点を示すことを検討したい。

4-2　養護実習サポートガイドの意義

学生が充実した実習を行うためには、実習校と養成機関との連携が欠かせないが、両者はとも

に多忙であり、対面での情報共有が十分できない現状がある[5)]。本サポートガイドは実習校と養成機関とが実習において共有すべき内容を簡潔にまとめた。また、実習中に、指導養護教諭が手元において内容を確認が出来るよう実用性を重視した。さらに、本サポートガイドは指導養護教諭のみならず、他の教職員が養護実習の概要を理解できるものとした。アンケート調査では【適度な分量による読みやすさ】、【実習目標に関連した具体的な実習内容】、【視覚的な効果が高いデザインによる活用のしやすさ】が有効的な項目としてあげられた。これらから、サポートガイドが指導養護教諭の不安を軽減し、自信をもって指導を行うことをサポートしていたことが明らかとなった。よって、対面での情報交換ができない状況において、サポートガイドは養成機関と実習校の連携を補完するツールとしても機能すると言える。さらに【養護教諭以外の教員への実習の理解促進】が有効的な項目としてあげられた。学生は実習において、他の教員からも多くの学びを得ている[8)]ことから、サポートガイドにより教職員が養護実習の目標や内容を理解することは、学生の学びの保証にもつながる。

以上、サポートガイドは養成機関と指導養護教諭が共有すべき内容を確認する手立てとなること、他の教員が養護実習を理解し協力する手立てとなることで、指導養護教諭が安心して実習指導を行うためのサポートとなった点で意義がある。さらに、指導養護教諭がサポートガイドを活用することは、実習目標や内容などの標準化にもつながる点で、養護実習の質の保証にも寄与すると思われる。

5．結論

本研究の目的は、養護実習を行う養護教諭のためにサポートガイドを作成し、評価することであった。作成したサポートガイドは内容を最小限に厳選して、仕上がりＡ４サイズの巻き三つ折りとした。また、内容や計画を視覚的に見やすくしたり、実施した項目をチェックできるようにしたりと実用性を重視した。サポートガイドに対する評価をするために、養護教諭によるアンケート調査を実施した。評価は概ね良好であったことから、サポートガイドは養護教諭の実習指導をサポートするために有効であることが示唆された。

付記

本研究は平成29年度～令和元年度科学研究費基盤研究（C）「養護教諭の専門性を目指した養護実習スタンダードモデルの開発」（研究代表者：齋藤千景）の一貫として共同で遂行、執筆された研究成果の一部である。

文献

1）齋藤千景、竹鼻ゆかり、朝倉隆司ほか：養護実習における学生の目標達成度、満足度に関連する要因. 学校保健研究 60. 233-241. 2018

2）石原昌江、野村梨香：岡山大学における養護実習の現状と課題. 岡山大学教育実践総合センター紀要 1. 89-98. 2001

3）日本養護教諭養成大学協議会：教育課程（カリキュラム）検討委員会報告. 日本養護教諭養成大学協議会委員会報告書. 7-18. 2008

4）大谷尚子、中桐佐智子：全国養護教諭養成機関における養護実習の運営について―現状と今後の検討すべき課題について―. 学校保健研究 36.567-577.1994

5）齋藤千景、竹鼻ゆかり、朝倉隆司ほか：養護教諭養成大学における養護実習の現状と課題．学校保健研究 58. 75-83. 2016
6）大谷尚子、中桐佐智子：養護実習ハンドブック．東山書房．京都．2012
7）尾花美恵子、粟田舞、西川路由紀子：養護教諭のための教育実習マニュアル．少年写真新聞社．東京．2012
8）横浜市教育委員会：平成30年度 教育実習サポートガイド．https://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky8/k-center/daigakurenkei/support-guide-yogo.pdf（アクセスH30.8.9）
9）中央教育審議会：「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（答申）」H20.1.17
10）中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」H28.12.21
11）齋藤千景、竹鼻ゆかり、鎌塚優子ほか：実習の指導経験を通した指導養護教諭の学び．日本健康相談活動学会．第14回学術集会抄録集．118. 2018
12）教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会：教職課程コアカリキュラム．H29.11.17

（2019年 9 月28日提出）
（2019年10月10日受理）